

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年2月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 フェヴリナ
 コード番号 3726 URL <http://www.favorina.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 英樹
 問合せ先責任者 (役職名) AFD S.Manager (氏名) 堀川 大輔
 四半期報告書提出予定日 平成22年2月10日
 配当支払開始予定日 —

TEL 092-720-5420

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	1,901	63.6	160	—	161	—	116	△80.0
21年3月期第3四半期	1,162	—	7	—	9	—	580	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	248.19	—
21年3月期第3四半期	1,236.48	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	1,565	1,346	84.3	2,851.99
21年3月期	1,495	1,246	81.8	2,602.60

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 1,320百万円 21年3月期 1,222百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,622	35.4	155	10.7	156	9.0	109	△85.2	232.43

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

詳細は、4ページ 定性的情報・財務諸表 4. その他 をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	469,866株	21年3月期	469,866株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	6,941株	21年3月期	83株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第3四半期	468,952株	21年3月期第3四半期	469,814株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社が本資料の発表日現在で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、当社の事業を取り巻く経済情勢、市場動向等に関わる様々な要因により、記述されている業績予想とは異なる可能性があります。

定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期会計期間におけるわが国経済は、景気動向指数、中でも先行指数は8ヵ月連続でプラス推移しているものの、実質消費支出が実需品へ偏る傾向が強く、景気回復の自律性に乏しいという不透明要因が示唆されております。

なお、当社が属しております化粧品・健康食品通販業界は、引き続きスキンケアに対する関心の高まりもあり、異業種からのOEM進出、受託販売進出等による新規参入が際立ち、それにとまなう商品全体の低価格化、ブランド価値の差別化と絶対顧客数の確保の困難化等により、熾烈な競争下にあります。

このような環境下におきまして当社は、新規顧客層の拡大と既存顧客層の確保を基礎に、カスタマーフレンドの育成・インフォーマーシャルの仕様変更・NANO ACQUAを代表とするブランド価値の確立に注力し、外部環境への対応に努めてまいりました。

まず、新規顧客層の拡大に関しまして、新しく製作したインフォーマーシャル放映による新規顧客の囲い込み活動を展開いたしました。また、インターネット販売におきましては、当社主力商品であるNANO ACQUA「ジェルパック」を中心とした販促活動を行いました。しかし、予想を超える消費マインドの低迷と買い控えもあり、新規顧客獲得数、売上高ともに軟調に推移する結果となりました。

次に、既存顧客層の確保に関しまして、社員に対する「FAVORINA CREDO」の浸透活動により、カスタマーフレンドの顧客対応技術の向上を図りました。また、商品同梱ツールの改善、顧客と社員が交流する場の開催等を行い、リピート率の向上に努めました。当会計期間における既存顧客向け営業成績は事業計画の見込み範囲内となりましたが、将来的には売上増に寄与するものと想定されます。

利益面に関しまして、現段階で通期事業計画値を超える結果となりましたが、これは主にNANO ACQUAブランド新シリーズ発売に係る開発・製作費用等の計上時期が第4四半期会計期間にずれ込み、第3四半期会計期間に計上されなかったことに因ります。

最後に補足といたしまして、平成21年11月30日発表の「商品売買基本契約締結に関するお知らせ」の通り、当社は提携先を通じてNANO ACQUA商品を海外へ販売する予定ですが、次年度までは業績に与える影響は軽微であると見込んでおります。

以上の結果、当第3四半期会計期間の業績は、売上高608,597千円（前年同四半期比13.3%減）、営業利益60,822千円（前年同四半期は営業損失36,865千円）、経常利益60,784千円（前年同四半期は経常損失35,557千円）、四半期純利益57,782千円（前年同四半期は四半期純損失27,057千円）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 財政状態の分析

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産の残高は1,565,723千円（前事業年度末1,495,425千円）、その内訳は流動資産1,460,424千円、固定資産105,298千円となり、前事業年度末に比べ70,297千円増加いたしました。この主な増加要因といたしまして、販売活動による現金及び預金の増加137,734千円、差入保証金の増加47,456千円等によるものであります。また、主な減少要因といたしまして、売掛金の減少51,460千円、商品の減少52,866千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は219,064千円（前事業年度末248,494千円）となり、前事業年度末に比べ29,430千円減少いたしました。これは主に買掛金の減少29,221千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は1,346,658千円（前事業年度末1,246,931千円）となり、前事業年度末に比べ99,727千円増加いたしました。これは主に四半期純利益として116,389千円を計上したことによります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第2四半期会計期間末に比べ81,610千円増加し、1,095,516千円となりました。当第3四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、118,709千円（前年同四半期比114,994千円増）となりました。これは主として税引前四半期純利益48,129千円の計上のほか、資金収入といたしまして、たな卸資産の減少29,689千円、売上債権の減少10,376千円、仕入債務の増加19,978千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用された資金は、17,864千円（前年同四半期は4,792千円の獲得）となりました。これは主として有形固定資産の取得による支出17,393千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用された資金は、19,234千円（前年同四半期比18,939千円増）となりました。これは主として自己株式の取得による支出18,996千円によるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の通期の業績予想につきましては、計画通り進捗しており、平成21年10月29日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」における通期の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前事業年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

②棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出については、実地棚卸を実施せず、第2四半期会計期間末の実地棚卸高を基礎として、合理的な方法により算出する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,076,522	938,788
受取手形及び売掛金	118,153	169,613
商品	155,877	208,743
その他	112,393	140,323
貸倒引当金	△2,522	△3,809
流動資産合計	1,460,424	1,453,658
固定資産		
有形固定資産	24,910	9,516
無形固定資産	1,267	8
投資その他の資産	79,120	32,242
固定資産合計	105,298	41,766
資産合計	1,565,723	1,495,425
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,640	57,862
未払法人税等	2,765	5,178
賞与引当金	—	5,255
返品調整引当金	4,098	5,890
本社移転損失引当金	12,937	—
その他	167,897	170,871
流動負債合計	216,340	245,057
固定負債		
その他	2,724	3,436
固定負債合計	2,724	3,436
負債合計	219,064	248,494
純資産の部		
株主資本		
資本金	882,788	882,788
利益剰余金	456,862	340,473
自己株式	△19,392	△601
株主資本合計	1,320,258	1,222,660
新株予約権	26,399	24,270
純資産合計	1,346,658	1,246,931
負債純資産合計	1,565,723	1,495,425

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	1,162,048	1,901,251
売上原価	227,004	361,047
売上総利益	935,043	1,540,204
返品調整引当金戻入額	4,128	5,890
返品調整引当金繰入額	4,165	4,098
差引売上総利益	935,005	1,541,996
販売費及び一般管理費	927,815	1,381,302
営業利益	7,190	160,694
営業外収益		
受取利息	337	68
受取補償金	1,536	526
還付加算金	—	226
その他	760	207
営業外収益合計	2,634	1,028
営業外費用		
支払利息	137	207
支払手数料	—	204
営業外費用合計	137	412
経常利益	9,687	161,310
特別利益		
前期損益修正益	2,096	—
貸倒引当金戻入額	—	815
抱合せ株式消滅差益	512,522	—
償却債権取立益	53	11
新株予約権戻入益	—	1,076
特別利益合計	514,672	1,902
特別損失		
固定資産除却損	291	—
投資有価証券評価損	—	358
本社移転費用	—	12,937
特別損失合計	291	13,295
税引前四半期純利益	524,067	149,916
法人税、住民税及び事業税	△10,203	2,000
法人税等調整額	△46,645	31,527
法人税等合計	△56,848	33,527
四半期純利益	580,915	116,389

(第3四半期会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	702,050	608,597
売上原価	135,581	115,524
売上総利益	566,469	493,072
返品調整引当金戻入額	4,265	4,464
返品調整引当金繰入額	4,165	4,098
差引売上総利益	566,569	493,438
販売費及び一般管理費	603,435	432,616
営業利益又は営業損失(△)	△36,865	60,822
営業外収益		
受取利息	—	0
受取補償金	1,283	203
その他	106	28
営業外収益合計	1,389	232
営業外費用		
支払利息	81	65
支払手数料	—	204
営業外費用合計	81	270
経常利益又は経常損失(△)	△35,557	60,784
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	271
償却債権取立益	53	11
特別利益合計	53	282
特別損失		
本社移転費用	—	12,937
貸倒引当金繰入額	300	—
特別損失合計	300	12,937
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△35,804	48,129
法人税、住民税及び事業税	666	710
法人税等調整額	△9,413	△10,363
法人税等合計	△8,746	△9,652
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△27,057	57,782

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	524,067	149,916
減価償却費	3,630	4,253
のれん償却額	1,823	—
固定資産除却損	291	—
本社移転費用	—	12,937
抱合せ株式消滅差損益 (△は益)	△512,522	—
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	358
新株予約権戻入益	—	△1,076
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△354	△1,287
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	37	△1,792
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△817	△5,255
受取利息及び受取配当金	△337	△68
支払利息	137	207
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,563	51,460
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△132,325	53,625
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	60,633	△814
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,465	△29,221
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△8,413	△3,817
その他	12,817	3,443
小計	△42,428	232,870
利息及び配当金の受取額	337	68
利息の支払額	△110	△211
法人税等の還付額	16,020	15,413
法人税等の支払額	△2,155	△2,910
営業活動によるキャッシュ・フロー	△28,336	245,229
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△20,770
無形固定資産の取得による支出	—	△800
投資有価証券の清算による収入	4,642	—
貸付けによる支出	—	△413
貸付金の回収による収入	450	638
差入保証金の差入による支出	—	△47,456
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,092	△68,802
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△18,996
リース債務の返済による支出	△295	△703
財務活動によるキャッシュ・フロー	△295	△19,699
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△23,540	156,728
現金及び現金同等物の期首残高	315,831	938,788
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	491,481	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	783,772	1,095,516

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第3四半期会計期間において、平成21年10月29日開催の取締役会における自己株式の取得決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この結果、当第3四半期会計期間において、自己株式が18,791千円増加し、当第3四半期会計期間末において、19,392千円となっております。

6. その他の情報

当社は平成20年8月1日付で連結子会社であった㈱フェヴリナ（以下、旧㈱フェヴリナ）を吸収合併しております。そのため、前第3四半期累計期間の業績には平成20年7月31日（合併期日の前日）までの旧㈱フェヴリナの業績が含まれておりません。被合併会社である旧㈱フェヴリナと平成20年12月31日で連結した場合の四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書は以下のとおりです。

(1) 四半期連結損益計算書 第3四半期連結累計期間

科目	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
	金額(千円)
売上高	1,949,554
売上原価	390,619
売上総利益	1,558,934
返品調整引当金繰入額	4,165
返品調整引当金戻入額	4,128
差引売上総利益	1,558,897
販売費及び一般管理費	1,459,956
営業利益	98,941
営業外収益	
受取利息	337
受取補償金	1,720
その他	900
営業外収益合計	2,958
営業外費用	
支払利息	137
営業外費用合計	137
経常利益	101,762
特別利益	
前期損益修正益	2,096
償却債権取立益	203
特別利益合計	2,300
特別損失	
固定資産除却損	291
役員退職慰労金	5,000
特別損失合計	5,291
税金等調整前四半期純利益	98,771
法人税、住民税及び事業税	2,316
法人税等調整額	△47,468
法人税等合計	△45,151
四半期純利益	143,922

(2) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
区分	金額 (千円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	98,771
減価償却費	6,190
のれん償却	3,282
固定資産除却損	291
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△53
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	646
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△2,450
受取利息及び受取配当金	△337
支払利息	137
売上債権の増減額 (△は増加)	△22,098
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△112,396
その他流動資産の減少額 (△は増加)	3,539
仕入債務の増減額 (△は減少)	16,752
その他流動負債の増減額 (△は減少)	46,298
その他	12,817
小計	51,392
利息及び配当金の受取額	337
利息の支払額	△110
法人税等の還付額	16,020
法人税等の支払額	△4,680
営業活動によるキャッシュ・フロー	62,959
投資活動によるキャッシュ・フロー	
投資有価証券の清算による収入	4,642
貸付金の回収による収入	450
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,092
財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の返済による支出	△295
財務活動によるキャッシュ・フロー	△295
現金及び現金同等物の増加額 (又は減少額)	67,755
現金及び現金同等物の期首残高	716,017
現金及び現金同等物の期末残高	783,772